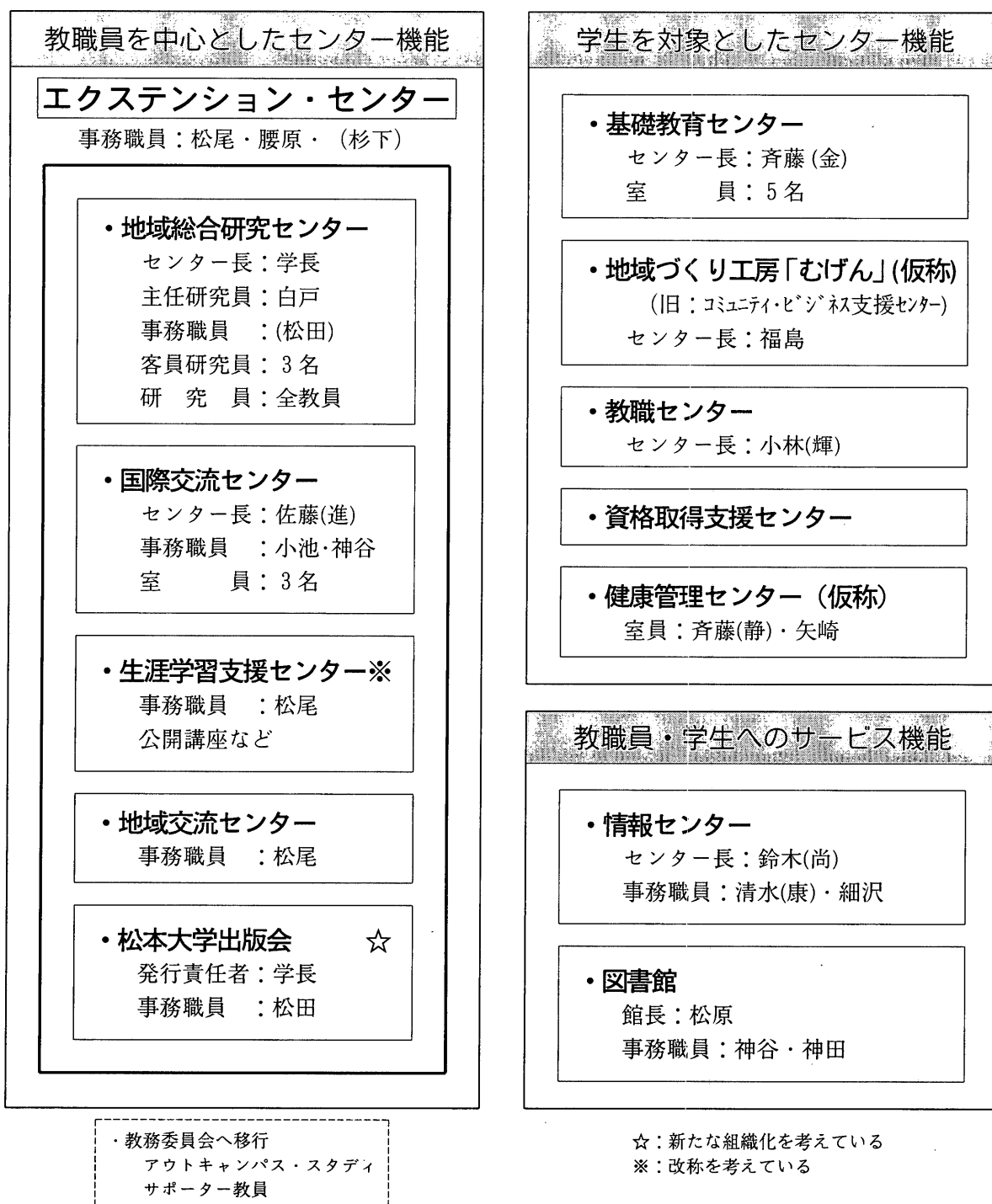


(2) エクステンション・センター活動報告(2004.4~2005.3)

松本大学設立に際して、地域社会との接点を持つ窓口として、あるいは学生の資格取得を外部組織との協力も取り入れながら推進するための窓口として、エクステンション・センターが設けられた。大学も完成年度を迎え、センター機能も充実して来ているので、現状をサポートしておこう。

(1) エクステンション・センター組織と各種センターとの関連

松本大学も完成年度を迎えるまでに、様々な経験を蓄積する中で、学生や教職員の実態により適合した形態へとマイナーチェンジを繰り返してきている。そこで、現時点で来年度からの体制を踏まえたエクステンション・センターの在りようを概観しておきたい。



☆：新たな組織化を考えている
※：改称を考えている

(2) エクステンション・センターの5つの機能

エクステンション・センターは、教員を対象として地域社会との窓口機能を果たすものと考えられる。エクステンション・センター内は5つの機能に分かれている。このうち、地域総合研究センターと国際交流センターに関しては独自に活動報告が掲載されているので、詳細はそれに委ねる。生涯学習支援センターは、学習支援センターからの改称にあたるが、これは学生教育との関係に重点が置かれていたアウトキャンパス・スタディやサポーター教員の登録などの業務を、教務委員会へ移行したことに伴い、残された学習支援機能が、地域社会に向けた生涯学習支援に限られてきたからである。その主な業務内容は、公開講座、公開講義、特別講義などの開催に関するものである。

地域交流センターも、学生の教育に関連する部分は地域づくり工房「むげん」(仮称)の中に位置付けられ、授業で学んだ内容をさらに広げるべく、地域社会の中で生きた学習活動を地域の方々と一緒になって行う事を目指している。つまり教育活動である。残された機能は、地域社会の要望に応え、大学施設の利用に関する窓口業務であり、教職員の紹介によるものや、地域の団体が独自に申し入れる場合に対応することになる。松本大学出版会は新たに立ち上がった組織であるが、基本的には教員を対象にし、その研究成果を地域社会に問うものであると考えて、エクステンション・センター機能の中に含めようと考えている。

これら新規参入組織に対して、資格取得支援センターであるが、設立当初は外部組織との連携を強める事により、本学学生の資格取得の熱意に応えようと考え、エクステンション・センター内に置いていた。しかし現実には、余りにも受講料が高価であることなどから受講学生数に限界があることが明確となった。この時点で資格取得は授業を通して、或いはその補習授業のような形態を採って、学生負担を減らしながら成果をあげようという考え方に傾いて行った。このような観点から、資格取得は内部的な窓口とすべきであると考え、エクステンション・センター機能からははずす事が妥当と考えている。

(3) 教育を任務とするセンター

次に学生を対象にした教育機能に関係するセンターについて概観しておこう。まず基礎教育センターであるが、学生の基礎学力アップを目指し、日常の講義の理解を深めるだけでなく、就職試験の準備にも対応しようとしている。いつでも気軽に相談できるセンター作りが期待されている。地域づくり工房「むげん」(仮称)は学生の「無限」の可能性を、地域づくりの中から引き出し、学生の夢を現実のものとする「夢現」をかけて名付けられている。これは、授業で学んだ知識や技術を、地域づくりの中で実践的に生かそうとする試みで、優れて教育的活動と考えられる。専任の担当職員も配置されている。健康管理センター(仮称)は正式には発足していないが、現実には相談窓口が2ヶ所存在しており、一つは保健室、もう一つは相談室となっている。これらをまとめて命名すれば、健康管理センターとなるであろうと思われる。資格取得に関しては、それを推進する機能(資格取得支援センター)が必要で、財政的支援や講座の開講などに責任を持つという立場で活動している。現状では教務委員会と情報センターが代行しているが、きちんとした教職員による体制づくりをする必要がある。さらに、教職の免許取得に対応して教職センターも立ち上がっている。

(4) 教職員・学生へのサービス機能としての図書館・情報センター

最後に、学生教職員へのサービス機能であるが、情報センターと図書館がある。これらはどこの大学にも存在しているが、それぞれに実情を踏まえたサービス機能の強化が求められている。

来年度からは図書館・情報センターとも、それぞれ独自のアンニュアル・レポートを作成してもらう予定である。これを作成することで、それぞれの組織としての到達段階が明確になり、現状や課題が認識されるようになるからである。

(文責：住吉広行)